

程度持った人でないと、それは備えられないということがあります。それは確かに不平等です。不平等ということと言いますと、世の中ほど不平等なものはないわけですね。そういうことを言っているなら、これは前へ進みません。本当に、全体の市民の負担を軽くする方法でぜひ検討をしていただきたい、このように思います。たとえば、ごみに使う福生市の経費が大体どのくらいで、そして、二十六市の中で大体どのランクに位置しているのか、そういう数字が出ればもっともって明確になってくるんですが、私はいろんな聞きたい点がたくさんあるんですね、このごみの問題に関しては、市民は大変な関心を持っております。

どうかその点、理解されていることは十分知っていますんですが、大変御努力はわかるんですね、でも、どうか今後とも努力していただいて、よりよい福生市建設のために御努力をお願いしたいことを要望いたします。終わります。以上です。

○議長（田村市郎君） 次に、十二番 遠藤洋一君。

（十二番 遠藤洋一君登壇）

○十二番（遠藤洋一君） 通告に基づきまして一般質問を行いたいと思っております。

質問の内容は、四点からなっております。

第一番目は、横田基地についてです。

先ほど、日本共産党の原敏子議員の方から、チームスピリット'84につきましては非常に詳しい質問もありましたので、なるべく省略をしていきたいと思っております。二月の一日から始まりましたチームスピリット'84、ことしで九回目ということ、市民にも大変名前だけでもなじみが始めたという気がします。それぐらい毎年行われているものですけれども、ことしのチームスピリット'84につきまして、まず第一番目には、これらの非常に長い演習です。それから、この間には、離着陸がデータからいいましても普段の月の三倍近くになるということもあるわけですね、そういった大変に騒音が多くなるチームスピリット'84につきまして、市長は何か

の通告を基地から受けたかどうかということをお伺いしたいと思います。

まさか毎年行われています演習ですし、ことしもあることは、あらかじめ十二月にわかっていると思うんですけれども、新聞などの発表がありましたから、何らかのアプローチを市長は横田基地に対して行っているというふうに思いますけれども、その辺の事情をぜひ説明願いたいと思っています。

それから、演習期間が大変長くて、ことしは雪の日も多いんですけれども、大変めでたいことに、ことしは、去年よりも総飛行量というのが大変減っているんです。といいますのは、雪の降った日が非常に多いものですから、雪の日には、上を飛びますし130の演習ができなくなるんです。ですから、多分市民の皆さんにとっては、大変に静かな日々が続いているんですけれども、ただ、これが玉にきずなことがあります。雪が降ると夜じゅう滑走路を除雪するんです。そうしますと、ウンウンというモーター音がずっと響きま

て、基地周辺の住民は、今度は夜がうるさいということになってしまふんですけれども、ずっと演習が続いております。

それで、もう一つ市長さんに伺いたいですけれども、後から必要なら写真もお見せしますが、二月二十七日にC5Aギャラクシーから、核魚雷ではないかというふうに疑われておりますアスロックが搬送されました。危険度指数一番の標示が出ているんですけれども、この日にはそういう危険物が運ばれたということか一体あったのかなかったのかということをお伺いしたいことがあるだろうか。あるいは基地からそのようなことを言ってきたことがあるだろうかということをお伺いしておきたいというふうに思っています。

チーム・スピリット84につきましては、大変気になることが二つあります。つまり、いま言った通告を受けたのか、話し合いをしたのかというのと、アスロックについては、市長はそのことで知っていたのか、あるいは聞いたことがあるのかということの二つの質問をしていきます。

それから、基地につきましては、十二月から二月期の離着陸数について少し昨年度との比較も含めて行っていただきたいというふうに思います。

いま申し上げましたとおり、雪の日が多かったものですから、大変結構なことに飛行量は若干の減少をしているのではないかと思いますけれども、夜、昼、あるいは夜中の飛行量の比較というふうな形で、数字をぜひ出していただきたいというふうに思います。

それから、次は、教育行政についてというふうに題をお願いをいたしましたけれども、一は、市内の小中学校の警備の無人化の問題です。前回の総務委員会の中でも、特定事件として民社党の小野沢議員が質問なさいまして、その後追いのようになりますけれども、市内の小中学校十校の警備、いままではずっと夜じゅう人がいて、有人警備ということになっていましたけれども、それを一部無人化、つまり途中の時間から無人化に切りかえるというふうに聞いております。これにつきましては、教育委員会の方で検

討をかなり長いことなされたのではないかとこのように思っておりますけれども、無人化に至る経過、無人化を採用するに当たっている利点等々があったと思いますけれども、どのようなことでこの無人化に踏み切ったのかということについての経過を知りたいと思います。

それから、学校現場のことですから、当然教職員の方々とのさまざまな交渉、あるいは相談といったことがあったのではないかと思います。そして、それらの相談につきましての経過をぜひ伺いたいと思います。

それから、もう一つは、これから実施をする予定だというふうに伺っていることです。どのような考え方が伺いたいんですが、まず一つは、一番心配なのは、夜学校に人がいなくなって、非行化の問題やいわゆる世に言う非行少年少女たちのたまり場になるのではないかとこのような心配をする筋もあるんですけれども、父母やあるいはPTAの人たちとの話し合いとか、あるいはそれらについての周知

徹底についてはどのような形を考えているのかということを知りたいんです。

それから、もう一つ気になりますのは、警備会社に委託をいたわけてすけれども、それらの会社との対応というのは、一体どのような教育委員会とはなされてきたのかということも、続いて伺っていききたいと思います。

それから、三番目はごみの問題なんです。

いまの公明党の東田議員さんもおっしゃいましたとおり、ごみの問題は大変重要な問題です。私は非常に評価をできることだと思いますけれども、こういう黄色いビラが皆さんのお手元に行っていると思います。有害ごみをとにかく市の方で処理をしようというふうに決まっています。私は、これは大変な英断であるというふうに思っています。

いままでは、燃えないごみ、燃えるごみというふうに分けていましたから、なかなか有害ごみに対する認識というのは余りないの

ではないかと思っていたんですけれども、特に、中に公害を発生するであろう水銀を含むようなボタン電池や、あるいはそのほかにも公害を発生するアルカリの電池、それから、いままでの乾電池全部そうですね、蛍光灯の中に入っている水銀物質、それから体温計の中の水銀物質についていろんな公害が発生することが指摘をされているわけです。

今回、福生市におきましても、有害ごみを有害ごみというふうに書いて出してくださいという形でお知らせが来ました。このことは非常に結構だと思えますけれども、たとえば隣の昭島市はどうかということをしているかといいますと、デポジットといって、その乾電池を市がお金を出して回収をしようということにしてたんです。ただ、これは全国で多分一つか二つの変わりものの市だということがあると思いますけれども、福生市でこのようなことをやるような考え方があるかどうかということを知りたいんです。

それから、もう一つは、特に水銀電池の場合には、売る業者の方に問題がありました。たとえば東京都などでは、その業者に対して水銀電池を回収する箱を出しなさいというような指導までしているわけです。

福生市におきましては、その業者、つまり電池を売ったり、あるいは皆さんのこういう腕時計の中に全部入っているわけですから、それを交換したときに、その交換したものを捨てるわけです。それで、捨てたら困ると言っているんですが、そういったものをカ、ウ屋さんや時計屋さんなどに回収しなさいというふうな指導を市はしているのか、あるいはこれからしようという気があるのかということ伺いたいです。

それから、もう一つ大事なことは、お店屋さんも大事ですけれども、一番大事なものは、やはりごみを出す市民の方々なんです。いまのところはこういうビラ一枚ですけれども、いずれにしましても、町会その他を利用して、その指導が市の方から降り

くるとも思うんですけれども、そのときに、たとえば有害ごみのための特別の袋を考えると、いろんな施策はあるんじゃないか。すけれども、こういった形で市民の皆さんに周知徹底をするか。あるいは公害の問題ですから、こう言っただけでは悪いかもしれませんけど、大変啓蒙的な運動が必要なわけです。そういうような水銀公害その他の有害ごみに対する啓蒙活動も含めて、どのような形でこれから進めていくかということ伺いたいと思います。

それから、最後には、都立保育園の問題ですけれども、これも日本共産党の原敏子議員の方から詳しい質問がありましたので、省かせていただきますけれども、一つだけ市長さんの方に、私が気になっているのは、市長の態度はいままでと同じで変わっていないのかどうかということなんです。要するに、都立保育園は都にお願いをするという基本姿勢があったと思うんですけれども、そのところの基本姿勢についてはどうなのかということと、もう一回伺いたいです。つまり、あくまで交渉のテーブルに着くようなこ

とについては都から言われているけれども、基本的には、都立保育園は都の方でめんどうをみてくださいというふうに市長は今までもお考えなのかどうかということについて、ぜひもう一回確認をしていただきたいというふうに思っています。

以上が一般質問です。あと細かいところと大まかなところと幾つもあるんですけれども、以上、壇上からの質問にしたいと思えます。よろしくお願いします。

○議長(田村市郎君) 三時五分まで休憩いたします。

午後二時五十三分 休憩

午後三時六分

開議

○議長(田村市郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

(市長 田村匡雄君登壇)

○市長(田村匡雄君) 遠藤議員さんの御質問にお答えいたします。横田基地についてのチーム・スピリット料についてでございますけれども

も、この件については、先ほど原議員さんにお答えしたとおりでございますが、基地からの通告等は来ておりません。また、防衛施設庁からも、こういう件については通知が来ておりません。

ただ、私も、こういった騒音とかいろんな関係がございしますので、この間に基地司令官ともお会いいたしましたして、安全性とか、それから騒音の関係とかということについては、一応申し入れ等をしてございます。

また、アスロックの件については、これもまことに申しわけないんですが、ございますけれども、連絡その他ございせんし、また、私も、この件については見たこともございせんので、大変申しわけないんですけれども、お答えはそういうことにさせていただきます。

次に、離着陸数については部長から答弁いたさせます。

それから、教育行政についても、教育委員会から答弁をさせていただきますのでお聞き取りいただきたいと思います。

ごみ問題の有害ごみの件でございしますけれども、これも細部に

つきましては部長から答弁をいたさせますが、一応この有害ごみに
ついては、福生でも今月の六日から処理をするんだという連絡をした
ところでございますし、また、デホジツ等の関係は現在のところ
考えておりません。保管をして、その保管が非常にむずかしいわ
けでございますけれども、こういったことについても、今後万全を期し
てやっていくというふうにしてございます。三多摩地域廃棄物広域
処分組合の方で処分を当分の間していくということで、市長会では
そういったことで申し込みをしております。

それから、都立保育園の移管のことについてでございますけれども、
この件につきましても、先ほど原議員さんにお答えしたとおりござ
います。先ほども申し上げたとおり、東京都からの条件等が、ま
だはっきりしたことが来ておりませんので、その時点でいろいろと
議会とも御相談しながら対処していきたいというふうに考えており
ます。よろしくお願いいたします。

○市民部長（井上久男君） それでは、横田基地の十二月から二月期の

離着陸数についてお答え申し上げます。

御質問は、昨年度と比較してという御質問でございますので、

若干長引くかもしれませんが、お許しただきたいと思っております。
五十七年の十二月の飛行回数が二千四百九十八回で、五十八年の十二
月におきましては二千五十四回で、前年に対して四百四十四回の
減になっております。一日の平均の飛行回数ですが、五十七年におき
ましては八十・六回、五十八年におきましては六十六・三回で、平均
十四・三回の減になっております。

それで、昼間の午前七時から午後七時までの時間帯になります
と、五十七年におきまして千九百二十九回、五十八年におきまして千六
百五十回で、やはり二百七十九回の減になっております。その一日平均は、
五十七年におきまして六十二・二回、五十八年におきまして五十三・二回
で、やはりこれも、平均でも九回の減になっております。

夕刻の十九時から二十二時まで、この時間帯の回数は、五十七年
におきまして四百三十九回、五十八年におきまして三百二回、百二十七

回の減でございます。一日平均いたしますと、五十七年で十四・二回、五十八年で九・八回、やはりこれで四・四回の減となっております。

次に、夜間の二十二時から午・前七時まで、五十七年度におきましては百三十回、それが五十八年には百二回で、やはり二十八回の減、一日平均五十七年四・二回、五十八年におきまして三・三回で、やはり〇・九回の減となっております。

それで、最高に飛んだ日は、五十七年におきましては、十二月の二十一日、百六十七回、五十八年におきましては十二月の二十三日、百六十一回で、これもやはり六回減になっております。

次に、騒音の最高の日が五十七年の十二月の二十二日に一一三ホーン、それから五十八年の十二月の二十三日に一二三ホーンと、これはほぼ同様の騒音でございます。

次に、五十八年の一月と五十九年の一月を比較いたしますと、飛行回数総数におきまして、五十八年におきまして二千百三十五回、五十九年一月におきまして千九百二十九回、これも二百六回の減でございます。

まず、一日の平均飛行回数につきましては、五十八年が六十八・九回、五十九年が六十二・二回、比較しますと六・七回の減でございます。

次に、昼間の飛行回数でございますが、五十八年の一月におきましては千六百三十回、五十九年の一月におきまして千六百三十五回、これは五回の増でございます。一日の平均が、五十八年におきまして五十二・六回、五十九年におきまして五十二・七回、〇・一回の増でございます。それから、夕刻の時間帯で、五十八年におきましては三百九十九回、五十九年におきましては百八十四回で、二百十五回の減でございます。同一の一日平均は、五十八年におきまして十二・九回、五十九年におきまして五・九回で、マイナス七件でございます。

それから、夜間におきましては、五十八年におきましては百六回、五十九年におきましては百十回、これは四回の増でございます。同一の一日平均の回数は、五十八年におきまして三・四回、五十九年におきまして三・六回、〇・二回の増でございます。

それから、最高に飛んだ日が、五十八年の一月五日、百五十六回、

それが五十九年の一月二十四日、百七十五回で、十九回の増でございます。

騒音の最高の日は、五十八年の一月二十一日に一一二ホーン、五十九年の一月の十四日におきまして百八ホーンで、これは四ホーンの減となっております。

次に、五十八年の二月と、五十九年の二月を比較いたしますと、飛行回数におきまして、五十八年二月が千八百三十四回、五十九年の二月に千五百四十九回で、二百八十五回の減となっております。一日平均の飛行回数が、五十八年におきまして六十五・五回、五十九年におきまして五十二・四回、マイナスの十二・一回でございます。

それから、時間別でございますと、昼間の、五十八年の回数が千三百八十回、五十九年が千三百五十一回、マイナスの二十九回でございます。その日の一日平均が、五十八年が四十九・三回、五十九年が四十六・六回、二・七回の減でございます。

それから、夕刻の時間帯でございますが、五十八年におきまして

三百十三回、五十九年におきましては百十八回、マイナスの百九十五回で、同一の一日平均が、五十八年が一・二回、それから五十九年が四・一回、マイナスの七・一回の減でございます。

それから、夜間の飛行時間帯ですが、五十八年におきまして百四十一回、五十九年におきまして八十回、マイナスの六十一回、その月の一日の平均が、五十八年におきまして五回、五十九年におきまして二・七回、マイナスの二・三回でございます。

最高に飛んだ日は、五十八年の二月三日におきまして百六十回、五十九年の二月二十一日におきまして百二十九回、マイナスの三十一回、それから騒音の最高の日は、五十八年の二月の六日、一一一ホーン、五十九年の二月七日に一一二ホーンで、おおむねほぼ同ホーンでございます。

以上、飛行の回数については終わります。

次に、いま一点、ごみ問題についての有害ごみの処理云々で、市長からデポジットにつきましては御答弁がありましたので、それ以

外のことと、二点目にありました市は販売業者に対して要請する、PRする考えはあるかどうかということですが、それにつきまして、業界からもその旨、各小売店まで浸透はされておると思えますが、市の方からも、市内業者に対してそういうような取り扱いについては協力方、また販売する際には、回収方の依頼の文書を出す予定でございます。

したがいまして、各家庭から出るごみは市の方で収集し、各市内業者で取り扱っているものについては、業者で回収方を願いたいというふうな考え方に立っております。

次に、特別な収集方法とか、PR、そのような問題はどうかというふうなことでございますが、先ほど遠藤議員さんもお持ちのように、清掃だよりで市の考えを打ち出しておりますので、その収集方法については、当分の間これで進めたいと考えております。

さらに、清掃だよりのほかに市のお知らせ、さらには市の広報、

こういうものにも掲載し、PRし、さらに、できるだけ回収に努めていきたいと考えておりますので、よろしく願います。

○教育次長（八木房雄君） 学校教育の教育行政についての小中学校の無人警備とその経過について、私の方から御答弁申し上げます。

市内の小中学校におきましては、現在民間会社の管理株式会社には有人警備を長い間委託いたしまして、現在まで実施してきた状況でございますが、昨今、公共施設における事件として、非常に侵入、それから盗難、施設の破壊、それから夜間プールに侵入されたり、また職員室が荒らされたり、というふうな事件が発生しております。最近、特に当市におきまして、体育館がかきさ壊されて中へ入られたり、そこで一夜を過ごしたというふうな例もございます。

そこで、警備員も毎晩四回ずつ巡回をし、警備をお願いしているわけでございますが、いずれにしても、その警備員は高齢でございます。まして、平均六十五歳のため、一泊とはいえ宿直の警備でございます。